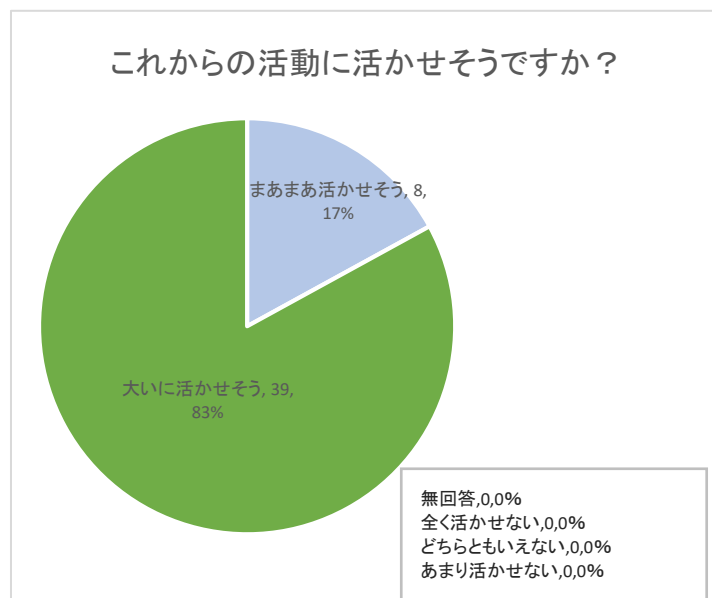
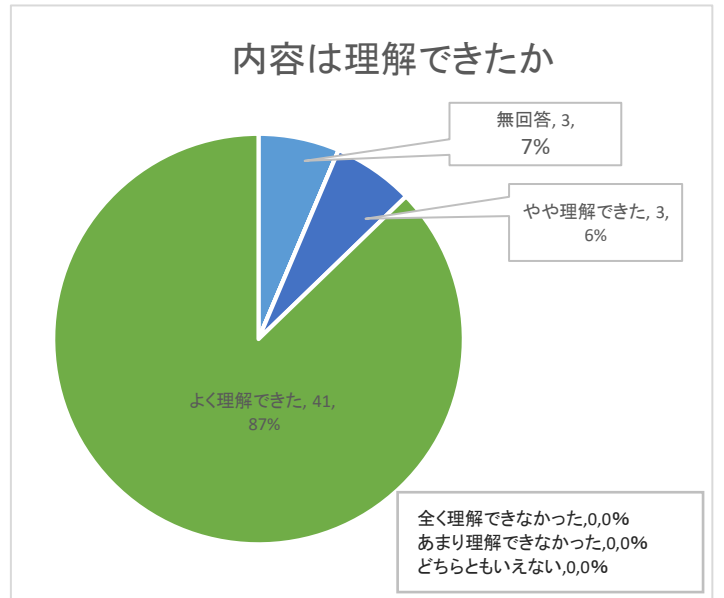
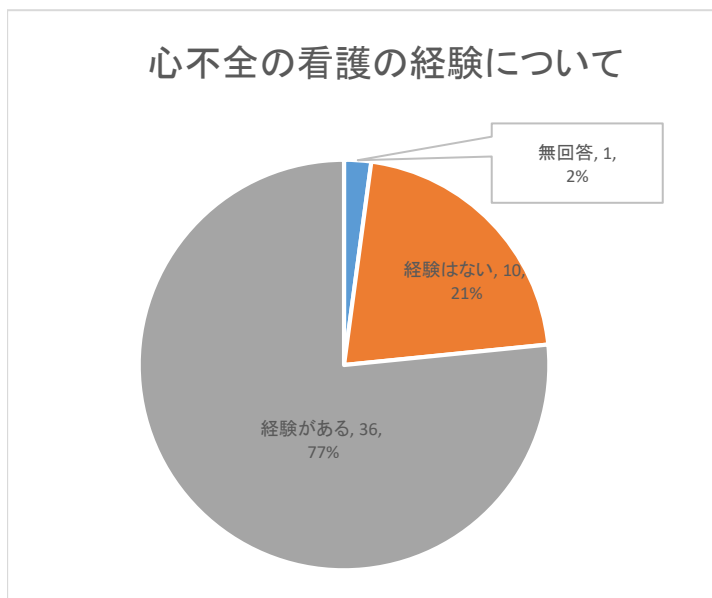
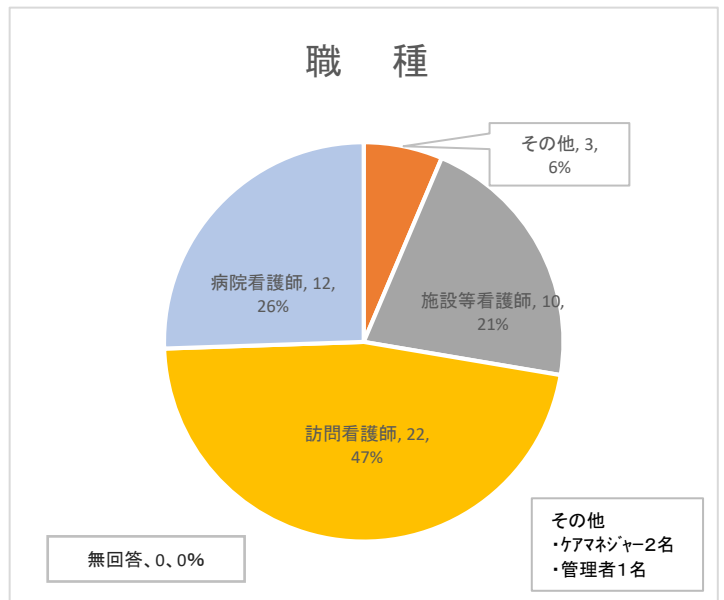
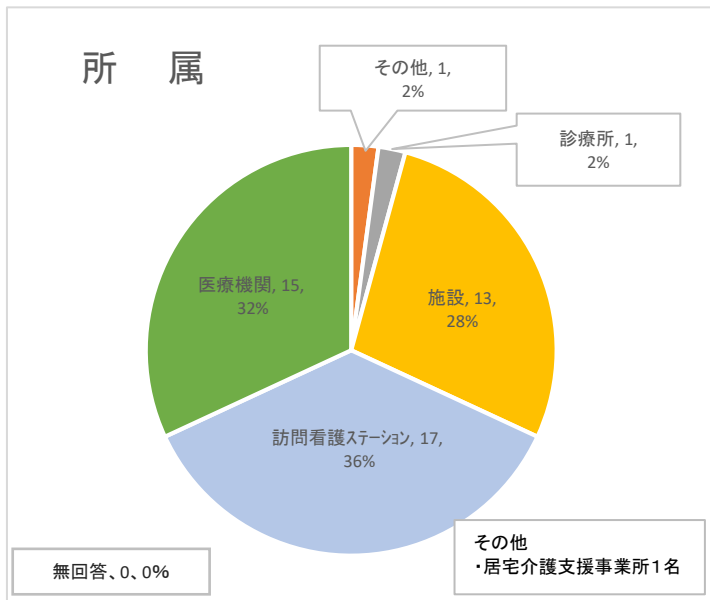
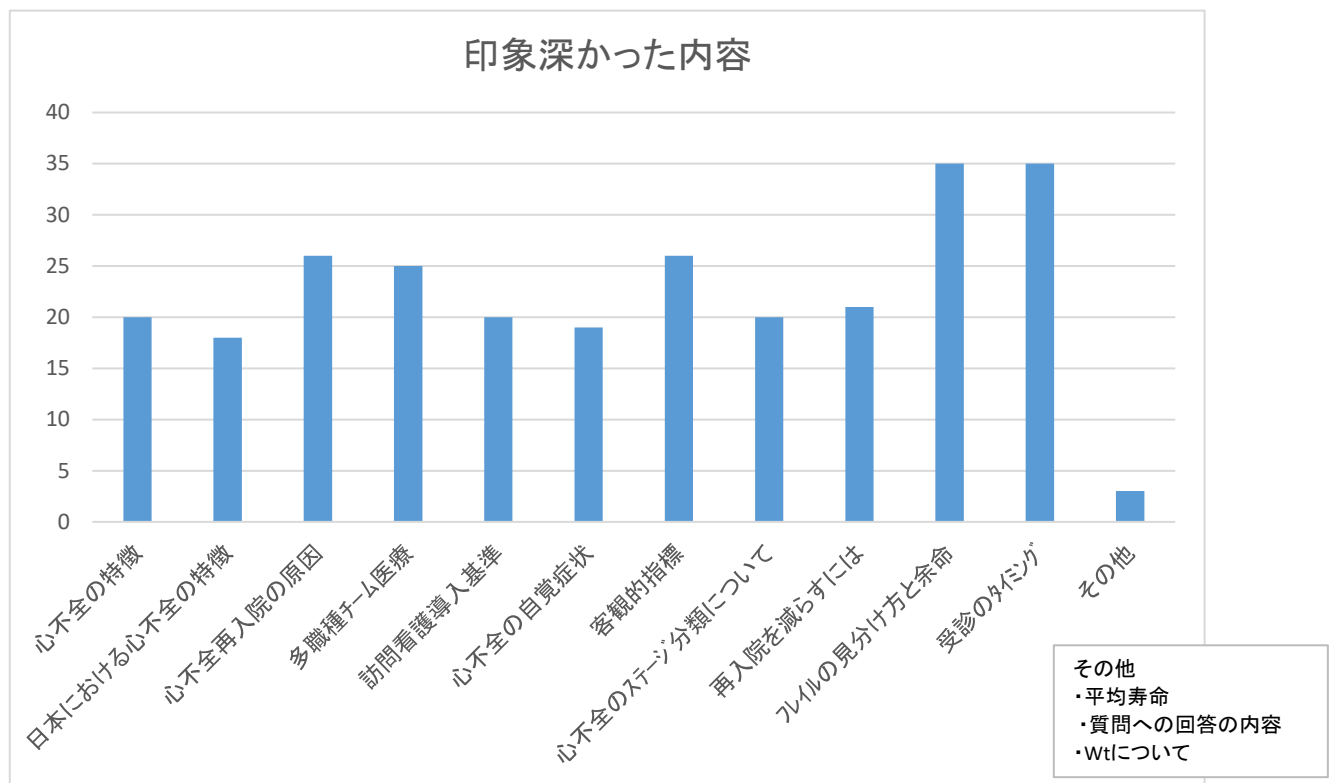


# 在宅ケアに係る看護師のスキルアップ研修会「超高齢社会における心不全管理」 アンケート集計

遠賀中間医師会在宅総合支援センター H29.10.19  
参加人数47名 アンケート47名





#### 【印象深かった内容の詳細】

- ・今後起きること、そのためには最近の心不全についてなど客観的な指標など流れがわかりやすくおもしろかったです。
- ・再入院を減らす、血圧測定、体重測定。
- ・塩分制限をどこまで厳しくしていくべきか。
- ・Wtが指標に大きく関わる事、とてもいい勉強になりました。同じ条件でWt測定することを心がけたいと思いました。
- ・心疾患の患者の余命についてはがんと同じくターミナルケアとしての観点も必要なのだと思った。
- ・受診のタイミングは今まで何となく感で対応してきましたが、点数評価を教えていただき、また自信がもてました。
- ・どのタイミングで受診の基準表(スコアリング)に係る全員が同じ基準を持てるのが良いと思う。とても良い学びができました。

#### 「研修会の内容はこれからの活動に活かせそうですか？ どんな点でそう思われますか？」

- ・どのタイミングで受診するべきかが、点数によりわかりやすく参考になりました。
- ・受診をおすすめするタイミングを知る。
- ・受診のタイミング、症状別について理解できた。
- ・病院受診のタイミングについて。
- ・在宅ケア時もどんな状況で受診や搬送したらいいのかわからなかったので、スコアリングという視点で今後活かせそう。
- ・再入院となる原因、フレイル、心不全のステージなど理解できた。
- ・血圧、体重を測るだけでなく、脈圧などフレイルなど評価していきたい。
- ・日々の変化で観察できるのが客観的指標と思いました。
- ・具体的にわかりやすく、スコア表等もわかりやすかったです。
- ・脈圧という指標はじめて知りました。質疑応答での不整脈や入浴での血流量(心出量)の低下、Wtとの関係、関連付けれて納得できました。
- ・客観的指標は使用していきたいと思った。他ステーション共々勉強会が必要と思う。
- ・心不全の見極め方が今後の看護に活かせると思います。
- ・具体的な血圧や心不全症状の指標を知ることができたと思います。
- ・客観的指標の視点が増えたことで、心不全悪化の予兆をとらえられるのではと思います。  
心不全悪化を繰り返すことで心機能ベースが下がるので、少しでもその悪循環を食い止めていきたいと思います。

- ・余命を予測し、提供できるサービスを多職種で適切に検討していきたいです。  
情報の共有の大切さの再確認を考えさせられました。
- ・在宅へ移行時の情報共有について、わかりやすく抜けがないような看護添書を心がけて記入していきたいと思いました。また、在宅での環境についても入院中よりしっかり情報収集していきたいと思いました。
- ・施設での対応の場合に、役立たせていただけだと思います。
- ・デイサービス勤務です。下肢の浮腫判断で見分けをより理解できた。心不全の自覚症状、Dr脈圧の再確認。
- ・認知症であり心不全の病態である入所者を看護している中で、心不全のスコアリングは有効だと感じています（本人からの訴えがなかなか正確でないの）。

### 【感想】

- ・デイサービスでの利用者様にあてはめながら考えさせられました。
- ・心不全は難しくて避けてきたけど、とてもおもしろいものになりました。
- ・今回の勉強会は図で表現されているのでわかりやすかったです。
- ・とても分かりやすく実践に取り入れやすいお話をありがとうございました。
- ・学会等での最新の情報もたくさんお話していただき、絵が多く印象に残りやすくわかりやすかったです。
- ・全て印象深かったです。
- ・実践的な内容で勉強になりました。
- ・今日の研修会は全て参考になり、すごく時間が早く過ぎました。かなりわかりやすかったです。
- ・スライド、先生の講義内容とてもわかりやすかったです。

### 「心不全管理に関して、今後、さらに深めたい知識はありますか？」

- ・点(ポイント)でしか在宅はみれないけどその場で簡単に判断できる基準をもっと覚え学びたいです。
- ・利尿剤の使い方、在宅での薬剤コントロール。例)体重がOKg以上になれば利尿剤IT内服など。
- ・薬の調整について。
- ・多職種チーム連携。
- ・生活管理の方法をもっと知りたい。
- ・聞いてない事以外全て学びたいです。
- ・緩和ケア。
- ・心不全の緩和ケア。
- ・緩和ケアについて。
- ・在宅管理など。症例検討。